

NPO 法人流山市国際交流協会



NIFANEWS

発行: NPO 法人 流山市国際交流協会
〒270-0111 流山市江戸川台東 1-4 3F
国際理解サポートセンター内
☎ : 04-7128-6007
Email: nifa-support@bz04.plala.or.jp
http://nifa-home.sakura.ne.jp/

ステイホームは 世界の‘おうち料理’で
毎日の手作り家庭料理に、世界の味を加えてみませんか？



オムレツでスペインの味を Tortilla española (スパニッシュオムレツ) マリアンジェルス (Mariangels) 浅野さん(スペイン語講師)

皆さんにもおなじみのスパニッシュオムレツ(Tortilla Española)を紹介します。スペインの家庭では食事のメインディッシュとして食べることが多いです。

スペインでは“tortilla de patatas” (ジャガイモオムレツ)とよばれていますが、ジャガイモだけのものと、ジャガイモと玉ねぎが入ったものがあり、どっちが本物なのか・と議論になったりもします。私は甘みもあり、しっとりとするので、玉ねぎが入っている方が好きです。今回はメインにするなら2人分、おかずの一品であれば4人分かな？というサイズです。小さめでオムレツにし、高さを出す方が見栄えがいいので、18センチ～20センチのフライパンをオススメします。

【材 料(2人分)】 ジャガイモ 中 2 個、玉ねぎ 中 1 個、卵 M 4 個、オリーブオイル 1/2 カップ



【作り方】 ①ジャガイモの皮をむいて、3～4mm にスライス(スライサーを使うと便利です)。玉ねぎは薄切りにする。②オリーブオイルを入れたフライパンに玉ねぎとジャガイモを入れ、柔らかくなるまで炒める。塩少々。③玉ねぎとジャガイモをフライパンから取り出し、オイルを切る。オイルは別の容器に移す。④卵をボールに溶き、塩で味付けする。⑤炒めたジャガイモと玉ねぎをボールに入れ、混ぜる。⑥温めたフライパンに、③のオリーブオイルを適量入れ、ボールの中身を入れる。⑦卵が固まってきたら、フライパンより大きな皿で蓋をしてオムレツをひっくり返し、お皿からスライドしてフライパンに戻し裏面を焼く。⑧好みの焼き加減でフライパンから取出す。

(スペイン通からの一言/スペイン語中級講座 恩田博志さん)

※温かいままでも、冷たくても美味しく頂けます。

『スペインのオムレツといえば私はジャガイモ派ですが、これが美味しい。ビールにもワインにも合います。』



揉むほどに旨味益々カレーチキン～サーシャ風ジャマイカンカレーチキン～ サーシャ・リー・シールズ (Sasha Lee Seals) さん

ジャマイカはアフリカ系、インド系、中国系他の人たちが一つに融合し造り上げた国、カレー料理は普段食です。日本のカレーはドロドロしたスープ風、ジャマイカンはカレー味を染み込ませたチキンや野菜の味を楽しみます。なので香辛料をチキンに“ギュッギュッ”と力を込めて揉みこむほどおいしくなります。マッサージの要領で。これが一番のポイントです。味は各おうちのお好みですが、サーシャ風は最後にピーマンで彩りを添え、見た目にもおいしくすることです。チキンをやぎ肉にして結婚式やクリスマスなどのお祝いに食べることもあります。白いごはんと一緒に食べるのも日本と同じ。(ただジャマイカは副食、日本は主食) たまには違うカレーはいかがですか？(サーシャさん談)



【材 料】鶏肉 1/2 羽分、ライムまたはレモン 1 個、タイム(乾燥可) 5枚、カレー粉 大1、オールスパイス 大3、黒コショウ 大3、塩 小2～3、ココナッツオイル(サラダ油可) 大3、にんにく 2 片(みじん切り)、玉ねぎ 1個(みじん切り)、ジャガイモ 3個(一口大)、ニンジン 1本(一口大)、ピーマン 1個(スライス)チキンスープ 2カップ

【作り方】 ①鶏肉を食べやすい大きさに切りライムのしぼり汁、カレー粉、オールスパイス、ニンニクみじん切り、タイムと一緒によく揉み込み冷蔵庫で一晩寝かす。
②フライパンにココナッツオイルをひき、1の鶏肉に火が通るまでよく炒める。(焦げない程度の強火で水分をとばす)
③鶏肉が香ばしく色がついたらチキンスープ、玉ねぎ、塩コショウを入れ中火で1時間煮込む。
④ジャガイモ、ニンジンを入れ水分がなくなるように煮詰める。
⑤ピーマンを入れて3～5分位煮る。

作って
みました!
(西山)





サウジアラビア

夜明け前、拡声器から聞こえたお祈りの声

佐々木 晋さん (外国語支援事業部・日本語講座事業部)

2011～2018年の間、サウジアラビアのジッダ（ジェッダ）市で生活された時の様子を伺いました。

Q1.日本との文化・習慣の違いで戸惑ったり、困ったりしたことはありませんか？ その解決策は？

a. 毎日5回のお祈り時間です。拡声器でお祈りの声が流れます。一番目、つまり夜明け前のが、きつかったです。また、お祈りの時間は店も閉まるので、30分位待たなければなりません。仕事も例外でなく、中断します→(解決策) 慣れるしかありません。彼らにとってそれは人生そのものですから。毎日変わっていくお祈り時間は、アプリを利用して教えてもらいました。

b. 年に数回しか雨が降らず、街のインフラは対応していません。少し降っても道路は冠水。家のサツシも雨仕様ではないので、部屋の中が水浸しになります。でも、雨が降ると仕事は終わり！危ないので、早く帰りましょうとなります→エンジンを壊さない為、自動車のアクセルは戻しません。できれば、降雨や冠水が収まるまで、安全な所で動かないようにします。家では部屋のもの濡れないよう、事前に窓際から物を移動させます。

c. 日本の食材店も日本人シェフのいるレストランもありません。また、飲食が禁止されているものがあります→東アジア系の食材店で、代わりになりそうな物を購入します。納豆は、日本人で希望者を募り、食品輸入業者に頼んで大量に輸入したことも。魚市場に刺身にできる魚が入っても、自利できないので購入しませんでした。禁止されているものは我慢し、一時帰国時に満喫。ただ、簡単に帰国できないので、我慢できなければ近隣国で燃料補給しました。

d. 公共交通機関が日本ほど発達していないので、自動車社会です。また、外の気温が50℃位になる時があるので、歩く量が減り、よって、体重が増えました→帰国後、ダイエット。(現在、コロナでリバウンド中……)

e. 自動車の運転が荒く、最初の1年間は6回位ぶつけられました→滞在期間が1年を過ぎる頃になると、どの車もどどのような行動を起こすか予想できるようになりました。

f. 断食→食事は我慢できても、水分摂取は我慢できません。同僚は気にせず飲めと言ってくれましたが、我慢している人の前では飲めず、隠れて飲みました。結局、断食の期間は休暇をとり、一時帰国をするようになりました。

g. 当時、女性は運転免許を取れなかったため、外出が不便でした→裕福な家庭は女性に自動車と運転手を用意できましたが、そうでない場合、必要であれば、男性は仕事を抜け出して、連れ出しました。

h. 当時、女性は外出時、黒い衣装(アバヤ)を着なければなりません(服に気を遣わなくてといういいメリットも?)→制限が緩くなり、色やデザインを楽しむようになりました(現在、外国人女性の着用義務も緩くなったらいい)

Q2.日本にはない、優れた、面白いと感じた習慣や文化はありましたか？

a. 家族との時間を大事にします。定時退社は当たり前で、上司から率先です。長期休暇(1週間程度じゃありません)があったので、慣れない状況でも仕事ことができました。日本の働き方改革はまだまだ及ばないと思います。

b. 多国籍文化なので、英語が通じて助かりました。

c. 道路上では1cmでも前に！という競争はありますが、普段は声をかけたり、ニコッと笑えば誰でも仲良くなれます。

Q3.その国・地域の方とはどのように親しくなりましたか？ 近所づきあいはどのようにして可能になりましたか？

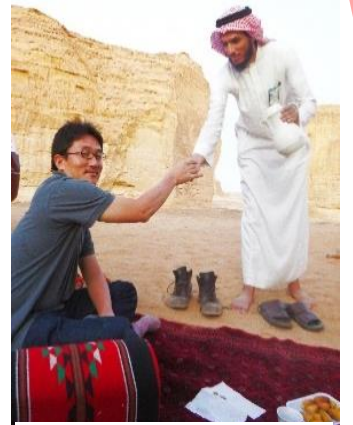
a. 趣味がランニングなので、現地のランニングクラブの幾つかに入って、主に週末は練習やレースを行いました。偏見かもしれませんが、スポーツをやっている人は礼儀正しく、誰でも受け入れてくれる寛容さがありました。

b. アパートは同僚に紹介してもらいました。日本人と直接接するのが初めてのよう人が多いので、家賃の支払いが遅れない、挨拶をする等、ちゃんとしている姿を見せて、信頼を得られたと思います。

c. 家の中の修繕等はなかなかやってもらえなかったため、穏便に、しかし、頻繁にお願いしなくてはなりませんでした。

追記 a. 当時、ジッダ市には日本人が200名ほどいましたが、その中に流山の八木中の同窓生が！世界が狭いことを実感しました。

b. レストランや銀行等は、Family セクションと Single セクション(女性の家族の同伴のない男性)の二つに分かれていました。スーパーのレジにも勤めていた会社にも男性しかいなかったため、一時帰国の際、電車で女性が横にいと、妙に緊張しました。



Al Ula(アル ウラ)にて、サウジ式に、デーツ(甘い実)とアラビックコーヒーでのおもてなし



Q. 流山小学校の歴史を紹介していただけますか？

A. 先週の9月23日が当校の創立記念日でした。コロナ禍のため放送を通じて生徒に話をしました。明治5年のこの日、常与寺で開校されました。明治になり新たに学制が公布され、当時この地が印旛県の県庁所在地でもあり、真っ先にここに学校ができました。100人くらいの子供が通ったようです。同時に教員を養成する必要から印旛官立共立学舎という教員養成所も開設されました。当校は明治になって千葉県で初めての小学校です。

Q. 今年は149年目ですね？

A. はい、再来年、令和4年が満150年です。

Q. ここが明治新政府の教育の中心だったのですか？

A. はい、明治6年6月15日には県庁が千葉市に移りましたが、この日が千葉県民の日の由来になっています。印旛官立共立学舎もこの年に千葉に移りましたが、当校は当時の「流山学校」の時からこの地に残り小学校として今に続いています。

Q. 毎年「国際交流会」でこちらにお邪魔するするたび歴代の校長先生の写真が壁一杯に並んでいるのを拝見し、歴史を感じます。学校は大きくなりましたね？

A. 今現在1,026人の生徒がいます。昭和50年代には街の発展とともに生徒も増え、1,700人くらいになりました。昭和50年には鱈ヶ崎小学校ができ、そのあと54年には流山北小ができ、更に昭和58年には南流山小学校ができました。その都度当校から、3百人から5百人の生徒が移っています。みんな兄弟校です。私は当校に赴任して2年目になります。

Q. 当時の学校区は広がったのですか？

A. 私の同世代の仲間に流山小学校の卒業生がいますが、当時は流鉄に乗って通っていたと言っています。

Q. 廊下に展示してある古くからの資料はいつでも、だれでも見ることができるのですか？博物館のようですね？

A. 昔の出勤簿のようなものもあります。この春は商工会議所の春祭りで、当校の古くからの物を見てもらう「流小ミュージアム」が企画されたのですが、新型コロナの

関係で中止となりました。

Q. 地域とのつながりは如何ですか？

A. 社会福祉協議会様とはかなりつながりがあります。運動会の他、月見の会とか、敬老会とか、給食の交流会を平日に開いてもいます。また先日は6年生に、郷土史の専門家の方からお話をさせていただいたり、切り絵行灯制作者の方を招いてお話を聞く会などを開いています。いわばここは地域の宝の山、教員だけではなく地域の方、外国の方とのふれあいを通して学んでほしいと思っています。「地域とともに」をキーワードにしています。

Q. 毎年3年生向けの「国際交流会」に外国出身の方を講師としてご紹介していますがいかがですか？

A. 素敵な取り組みです。昨年度教室を一通り見たのですが子供たちがみんな楽しそうにしていたのでよかったです。と思っています。

Q. 他の国の人の話を直接聞いて、暮らしぶりなど違いや同じところを感じ取ってもらえればいいと思います。

A. その通りです。国際交流協会がなければ難しいことです。是非続けたいです。

Q. 講師もこの機会を楽しみにしていますし、終わってからも毎回やってよかったと言っています。

A. 英語を教えることは日本人でも、教科書でもできます。でも「国際交流会」のおかげで英語圏以外の人とも接し、みんな文化や生活の違いを超えて幸せに暮らしたいと願っていることがわかります。一方日本は誰でもフレンドリーに受け入れる国だと、日本を見直すとてもいい機会です。色々な国、地域の方を紹介して下さるのでいいですし、先生ではない、街で会う普通の外国の人が話して下さるのがいいです。

Q. 私たちは、終わってから生徒の皆さんが感想を送ってくれるのも大変うれしく、講師の宝物になっています。

A. 教員たちも代々引き継いでやってくれています。それが伝統でしょうか。まもなく150年を迎えますが、地域の方も、熱い思いを持って当校を見守ってくださっており、その思いにお答えしていきたいと思っています。

◆お忙しい中お話ありがとうございました。

(2020年9月28日インタビュー西山勝 流山小学校にて)



NIFA 創立 30 周年を迎えて NIFA の今昔と私

伊藤 靖代さん(ホームステイ事業部、文化交流事業部)

流山市広報で NIFA 発足を知り、即入会したのが、40 代半ばでした。英会話のクラスは錆びついた頭に新鮮で、海外に興味のある方々とお知り合いになりました。語学クラスの立ち上げに関わり、ホームステイの学生受け入れやコーラス(ワールドハーモニー)にも参加して、多くのイベントは楽しい思い出です。それぞれ熱心な講師の方々、年齢層の違うお仲間とも長年の信頼関係が生まれ、私の人生の後半を大変豊かにしてくれました。NPO になった時など諸問題に大変ご苦労した本部の方々、その後もまた優秀な方々が担ってくださり、感謝しております。ただ以前からですが、お若い方が増えず残念です。地球が狭くなり、海外が身近になりすぎ、国際交流も今、コロナ禍を転換期に新しい形になっていくのかもしれない。「川も道も人も、曲がるところに物語が生まれる」(吉村喜彦)と。
 "Old soldiers never die. Just fade away"

活動報告



文化交流事業部

外国語支援事業部

ワールドハーモニーの再開は、「アムステルダムのチューリップ」から

NIFA は 6 月後半から色々な活動を再開していますが、文化交流事業部はずっと二の足を踏んでいました。でもみんなと一緒に歌いたいという思いが強まり、9 月からワールドハーモニーの講座を再開しました。みんなマスクを着け、広い部屋で、窓を開けての練習です。神保さんの体操、熊谷講師の発声というルーティンで、ワーハモの日常に再会した思いです。この日練習したのは「アムステルダムのチューリップ」。この春からずっと練習を待っていた曲です。ニフユス・ヨスさんを講師にお招きし、オランダ語を指導していただきました。独特の発音を、曲のリズム、音符の長さに乗せて歌うのは結構難しかったのですが、1 時間の練習で『聞いておかしくない』(ヨスさん)くらいにはなりました。もう 70 年以上も前から歌われている人気の曲。愛する人への想いを、美しいチューリップに託した、とても明るいワルツ。歌っていると自然に身も心も軽くなります。最後にメンバーの川上博美さんが作詞、作曲された「World Harmony」をヨスさんへのお礼に披露しました。この曲は「ワーハモのうた」です。(10月30日)



海外からの介護人材への橋渡し

NIFA は、このたびヒューマンライフケア(株)から通訳案件を受注しました。同社は、介護を中心としたサービス事業を広く営んでおり、今春流山市内に国際研修センターを開設、介護分野の技能実習生の入国後の講習や研修の事業を始めました。市立図書館、博物館沿いにあります。NIFA は研修生の母国語で通訳のサポートをします。9 月から 10 月にかけてベトナム出身者の研修で、介護の諸制度について法律上にまつわる場面で通訳を行いました。寺岡アイさんに担当していただきました。11 月にはモンゴル語での通訳を依頼されています。今後も多くの言語での通訳の依頼が期待されます。私たちは、近隣の国際交流協会の協力も得ながら、依頼に応じる体制を整えています。(10月31日)



外国語講座事業部

英会話サロンの教室にテレビカメラが入りました

サロン講師のエミリー・ジョーンズさんがテレビの取材を受けました。エミリーさんは 10 月の初めにテレビ番組に出演する機会があり、この番組作りの一環での取材です。番組では、エミリーさんの日常生活の一コマが紹介される予定で、英会話サロンの講師風景が取材されたものです。エミリーさんは、東京大学の柏の葉キャンパスで勉学の傍ら、2018年12月から講師を務めて頂いている他、クリスマスには子供向けイベントのインストラクターや、「おもてなし」講座のゲスト役をお願いするなど、積極的に異文化交流活動に関わって頂いています。この日は「自己紹介」がテーマ、参加者のトークを促す質問をしたり、表現の仕方を紹介するなど、いつもながらの楽しいサロンをリードしていました。番組は年明けに放映の予定です。(10月29日)



編集後記:

今号から強力な広報スタッフを迎えました。山田まゆみさんです。2 頁を担当しました。コロナは第三波? 昔「第三の波」があったなあ。コロナは第四の波をもたらす?

